

作成日 2015年 9月28日  
改定日 年 月 日

## 製品安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名 : サニテートAハンドミスト  
販売名 : ハセコールミスト  
NET 容量 : 750ml、4L  
会社名 : ライオンハイジーン株式会社  
住所 : 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル6階  
担当部所 : 企画開発部 研究所  
電話番号 : 03-3616-3159  
FAX番号 : 03-3616-3208  
緊急連絡先 : 03-3616-3159  
製品の用途 : 指定医薬部外品 手指消毒剤  
整理番号 : 2109  
製造販売元 : 小池化学株式会社  
製造販売元住所 : 埼玉県鴻巣市袋882

### 2. 危険有害性の要約

#### 【GHS分類】

物理化学的危険性  
引火性液体 : 区分2  
健康に対する有害性  
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A-2B  
生殖細胞変異原性 : 区分1B  
生殖毒性 : 区分1A  
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露) : 区分3(気道刺激性、麻醉性)  
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露) : 区分1(肝臓)、区分2(神経)  
環境に対する有害性 : 該当区分なし

#### 【GHSラベル要素】

絵表示 :



注意喚起語 : 危険  
危険有害性情報 : 引火性の高い液体および蒸気  
強い眼刺激  
遺伝性疾患のおそれ  
生殖能または胎児への悪影響のおそれ  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気やめまいのおそれ  
長期又は反復ばく露による肝臓の障害  
長期又は反復ばく露による神経の障害のおそれ

注意書き

予防策 :

裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。  
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

- 対応措置 : 火災の場合には適切な消火方法をとること。  
 眼に入った場合:水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。  
 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 保管 : 直射日光の当たらない涼しい所に保管すること。

3. 組成・成分情報

単一化学物質/混合物の区別 : 混合物  
 含有成分及び含有量 : 下記表参照

	成分名・化学名	INCI法	配合量 (wt%)	CAS No.	化審法No.	案衛法	PRTR法No.
内容液	エタノール	ALCOHOL	50.0~60.0	64-17-5	(2)-202	(2)-202	非該当
	水	WATER	40.0~50.0	7732-18-5	非該当	非該当	非該当
	グリセリン	GLYCERIN	1.0~5.0	56-81-5	2-242	2-242	非該当
	テトラデシルジメチルベンジルアンモニウムクロライド	BENZALKONIUM CHLORIDE	0.1~1.0	139-08-02	(3)-2694	既存化学物質	-

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。
- 目に入った場合 : 水またはぬるま湯で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 飲み込んだ場合 : 水を飲ませて吐かせる等の処置をし、医師の手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- 消火方法 : 初期の火災には、多量の水噴霧、または粉末、炭酸ガス等の消火器による消火を行う。  
 大規模火災には泡(耐アルコール泡)消火剤を用いて空気を遮断する。
- 消火剤 : 水、粉末、泡(耐アルコール泡)、炭酸ガス
- 使ってはならない消火剤 : 棒状注水
- 消火する者の保護 : 消火作業の際には、適切な空気を遮断する。

6. 漏出時の措置

流出した製品が河川などに排出され、環境への影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合には、汚染された排水が河川などに排出されないように注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取り扱い上の注意 : 患部が広範囲の人、深い傷やひどいやけどの人は使用しないこと。  
 使用後、皮膚に発疹、発赤、かゆみ等の症状があらわれた場合、直ちに使用を中止し、医師又は薬剤師に相談すること。  
 小児に使用させる場合は、保護者の指導監督のもとに使用させること。  
 目に入らないように注意すること。万一、目に入った場合には、すぐに水又はぬるま湯で洗うこと。なお、症状が重い場合には、眼科医の診察を受けること。  
 外用にのみ使用すること。  
 換気を充分に行うこと。
- 保管上の注意 : 直射日光の当たらない涼しい所に保管すること。  
 小児の手の届かないところに保管すること。  
 他の容器に入れ替えないこと。  
 火気に近づけないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度と許容濃度 : 下記表参照

	グリセリン	エタノール	テトラデシルジメチルベンジル アンモニウムクロライド
管理濃度	未設定	-	-
日本産業衛生学会	未設定	-	-
ACGIH(TLV-TWA)	10mg/m <sup>3</sup>	1,000ppm(1,880mg/m <sup>3</sup> )	未設定

9. 物理的及び化学的性質

(内容物) 性状 : 無色透明な液体で特異臭(アルコール臭)がある。  
 比重(20°C) : 0.892~0.912(中心値:0.902)  
 pH(20°C) : 5.5~7.5(中心値:6.5)

	グリセリン	エタノール	テトラデシルジメチルベンジル アンモニウムクロライド
融点	18°C	-114.5°C	65°C
沸点	290°C	78.32°C(101.325kPa)	データなし
引火点	160°C	13°C	160°C
燃焼範囲 (爆発範囲)	情報なし	下限3.3vol%上限19.0%	データなし
蒸気圧	1300Pa(167.2°C)	5.878kPa(20°C)	該当しない
蒸気密度	3.2	1.59	該当しない
密度	1.2594g/ml(25°C)	0.78493kg/m <sup>3</sup> (25°C)	0.17g/ml(見かけ比重)
溶解度	水、アルコールに可溶	水、エーテルに可溶	水、アルコール、アセトン に可溶
発火温度	386°C	439°C	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の手扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。  
 危険有害反応可能性 : 強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険性がある。  
 避けるべき条件 : ある種のプラスチック、ゴム、被膜剤を侵す。  
 混触危険物質 : 高温、火花、裸火、混触危険物質との接触。  
 危険有害な分解生成物 : 強酸化剤、次亜塩素酸カルシウム、アンモニア  
 一酸化炭素

11. 有害性情報

		グリセリン	エタノール	テトラデシルジメチルベンジル アンモニウムクロライド
急性毒性	経口	ヒト LDLo 1428mg/kg ラット LD50 12600mg/kg	ヒト LDLo 1400mg/kg ラット LD50 7060mg/kg	ラット LD50 240mg/kg マウス LD50 1250mg/kg
	経皮	ウサギ LD50 >10g/kg	-	ラット LD50 1.56g/kg
	吸入	-	ラット LC50 20000ppm/10H	-
	粉塵 ミスト	-	ラット LC50 118mg/L(4H)	-
皮膚腐食性・刺激性		ウサギ 500mg/24h:Mild	ラビット 400mg 開放 ラビット 500mg/24H	重度の火傷を起こす恐れがある。 皮膚に付着した場合、低濃度(1%)の溶液で刺激性があり、高濃度(10%以上)の溶液では炎症、カブレ等を引き起こす。長時間及び繰り返しての皮膚への接触は炎症、カブレ、アレルギー反応を起こす恐れがある。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	ウサギ 126mg: Mild	OECD TG405及び Draizetestに従った試験により、「moderate」と分類されている。 ヒトの角膜上皮の障害、結膜充血は1-2日で回復する。 ラビット 100mg/24H	・目に重大な障害を及ぼす危険性がある。 ・目に入った場合、低濃度(約1%~0.1%)溶液で、強い刺激性が見られ、高濃度(10%以上)では混濁や血管新生を伴う重度の火傷をする恐れがある。
呼吸器感作性	データなし	-	-
皮膚感作性	データなし	動物試験で有意の皮膚感作性は見られない。	皮膚感作性がある。2146名の患者への調査で、225例にアレルギー反応と258例に過敏反応がみられたが、臨床的関連性がみられたのは12例のみであり、塩化ベンザルコニウムの抗原性は弱いと考える。
生殖細胞変異原性	Ames試験: 陰性	ラット及びマウスにおける優勢致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発の報告がある。	Ames試験: 陰性
発がん性	IRAC: リストに記載なし NTP: リストに記載なし 日本産業衛生学会: リストに記載なし その他の発がん性情報: データなし	IARCでは「アルコール性飲料としてヒトに発がん性がある」としてグループ1に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づき、アルコール性飲料と食道系及び肝臓のがんの因果関係を認めたものである。他方、ACGIHは、主として作業環境での有害性因子としてエタノールをA4(ヒト発がん性に分類できない物質)に分類している。 マウス(経口): TDLo 320mg/kg/50W	IRAC: リストに記載なし NTP: リストに記載なし 日本産業衛生学会: リストに記載なし その他の発がん性情報: データなし
生殖毒性	-	習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。 ラット(吸入): TCLo 20000ppm/7H ラット(経口): TDLo 44g/kg	-

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	データなし	経口摂取により、中枢神経に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ、急性中毒の場合は死に至ることがある。ヒトでは、5,000ppm(9.4mg/L)の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす。	高濃度では口腔内から胃にかけて腐食性炎症を起こす可能性があり、過流涎、嘔吐、吐血、下痢や意識障害、重度の場合はショック、呼吸麻痺、痙攣、昏睡状態と心肺停止等の可能性有り。「区分2」
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	データなし	長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化を経て肝硬変に至る。アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)	職業性の喘息疾患が報告されている。
吸引性呼吸器有害性	データなし	データなし	データなし

12. 環境影響情報

	グリセリン	エタノール	テトラデシルジメチルベンジルアンモニウムクロライド
水生環境急性有害性	-	-	水性生物に有害
水生環境慢性有害性	-	-	長期的影響により、水性生物に有害
分解性	化審法生分解度試験(OECD301C Modified MITItest(I)):BOD生分解率63%(14日後)	理論酸素要求量(ThOD):2.10mg/L 生物化学的酸素要求量(BOD5):理論酸素要求量(ThOD)の44-80% 化学的酸素要求量(COD):理論酸素要求量(ThOD)の95-100% バクテリア硝化能の抑制:4100mg/Lでニトロソモナス種のアムモニア酸化の50%抑制	本品ではデータなし
生態毒性	コイ LC50: >1000mg/L(48h) ミジンコ EC50: 1000mg/L(3h)	マスの幼魚 LC50: 11.2g/L/24H コイの一種 LC50: 18-13.4g/L/96H クレークチャブ LC50: 7g/L/24H グッピー LC50: 11g/L/24H	本品ではデータなし

生態蓄積性	-	-	濃度:0.05mg/Lで1.8~8.6より、少ないBCF(生態蓄積性)の数値が測定された。結論として、水棲生物において蓄積性は低いといえる。 物性:(水に可溶)よりBCFの値は低いと推定され、水棲生物に対する蓄積性はないまたは低いと推定される。
-------	---	---	---

**13. 廃棄上の注意**

廃棄においては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。  
 中身を排水口や下水に流したり、山林や河川、海などの場所への不法投棄は絶対にしないこと。

**14. 輸送上の注意**

陸上輸送

- 容器表示 : 消防法の分類名称、品名、数量、注意事項(火気厳禁)など必要事項を表示してください。
- 積載方法 : 危険物を収納した運搬容器を積み重ねる場合は、自治省令で定める高さ以下にしてください。運搬容器の外部には危険物の品名や数量等の表示をして積載してください。
- その他 : 運搬に関しては容器に漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にし、消防法などでの法令に従ってください。高温(40℃)以上にならないように注意してください。移送時にイエローカードの保持が必要。
- 海上運搬 : 船舶安全法等に準拠(手続き、表示、運搬容器、積載量など)して運搬を行ってください。
- 航空輸送 : 航空法等に準拠(手続き、表示、運搬容器、積載量など)して運搬を行ってください。
- 国連番号 : 1170
- 国連分類 : クラス3(引火性液体)

**15. 適用法令**

- 薬事法 : 指定医薬部外品 手指消毒剤
- PRTR法 : 該当物質なし
- 労働安全衛生法 : エタノール:名称等を通知すべき有害物(別表第9)

**16. その他の情報**

注釈

本書の内容は、法規改正、新しい知見や情報入手、試験等により改訂されることがあります。  
 記載内容は現時点で入手出来た資料や文献等の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、如何なる保証もなすものではありません。  
 全ての化学製品には、未知の危険性や有害性が有り得るため、取扱いには細心の注意が必要です。本書には通常の危険性や有害性について記載してありますが、記載内容以外の危険性や有害性が存在しないことは、保障出来ません。記載事項は通常の実施を対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、新たに用途、用法に適した安全策をご実施の上、取扱い願います。

引用文献

原料メーカー発行の製品安全データシート